

中齋塾 東京フォーラム  
平成 28 年度 第一回講話

平成 28 年 1 月 9 日  
於 湯島聖堂

今の会話（谷口幹事から講話時間の説明）は、私にとると中身の制約を解除されたというような感じですか。「講話時間は何時何分です」と言いながら 5 分前、3 分前、1 分前、お終いと知らせますので、彼は時間を区切る権限を持っています。

私は彼の時間の権限に合わせてながら鵜飼の鵜みたいに喋っています。それを鵜飼の鵜が自由に「5 分前ですが、もう話がちょうどいいから終わり」と言ったら、谷口さんはちょっと慌てるし、うろたえる。どちらが主導権を握るかによって人生変わりますね。図らずも何かそういう流れを決めたら、それで人生の主導権を握る。例えば着る物もそうですが、奥さんに着る物を決めて貰ったら、知らず知らずのうちに主導権は握られてしまうかもしれませんね。でも考えてみたら、社長業時代はいつも黒いスーツを着ていました。今は、人前でお話をするが増えたので意識的に白い服に変えました。明るい色の服を着ることによって気分が変わる。着る物もだいぶ形や心持ちを変えるなど思いました。

この間、本屋で立ち読みをしていましたら「人の話を聞く時に、体力の無さそうな弱そうな人から話を聞くと、何となく軽くみてしまう。でも、体が大きく声に張りがあるって押しがきいている人間が話をすると、聞いている人は何となく威圧をされて、聞いてしまうケースが多い」

もうひとつ、2～3 年前から事務所に置いてある本で『人は見た目が 9 割』という本です。そういうことに当てはめると、谷口さんは体格が良く胸板もあついから押しが通りますね。

### 会いたいと思われる人

先程の猪瀬理事長が言われた「また会いたいね」と言われるような人になりたいということですが、猪瀬理事長に質問です。

・初めての方に会って、何分ぐらい話しをしたらそういう感覚になりますか？

(猪瀬理事長) 私はそんなに掛からないで 5～6 分です。

有難うございます。

・参与は、相手の方が初めての方だと何分ぐらいですか。

(大野参与) だいたい 45 分ぐらいです。

有難うございます。私は 1 時間ぐらいかかります。これは恋人同士だったら簡単ですが、

初めて会った人ですから。初めて会った人にそう言われるということは、一つの目安として大きいものです。

私は体験で感じましたが、「また是非会いたい。次はいつ頃、時間とれる？」と相手から聞かれる場合のことを考えてみたら、1時間以上話しをすると大体そうなる感じがします。5~6分だと、「こんにちは」「さようなら」で終わってしまいます。

1時間ぐらい話をすると、自分の持ち味が出せて相手も成る程とうなずいてくれます。お客様と相対する時には、「今日はあなたと会って、じつに勉強になった。また会いたいけれども今度はいつ頃来てくれる」と、だいたいのお客様が言ってくれます。お客様と話をする時に勉強になったと言われる部分は論語に関する話でした。相手がこれは素直に教わろうという気持ちになり、つき合うと何か良いことがあるかなと思っていただけるのには、どうしても私は1時間ぐらいかかりました。30分だと、「さよなら」と言ってほしい終わる。そんなことで長いおつき合いをしている方はたくさんいます。

だいたい3年に1回、5年に1回ぐらいの割合でおつき合いをしている方の棚卸をしています。棚卸しても、この方の年賀状は止めるわけにはいかないなと思って続けている方は、独立したての頃におつき合いをした方ばかりで、今もだいたい続いています。

仕事でトラブルがあってもお客さんが成る程なと思った時は、本当に長い人間同士のつき合いになりました。人間同士のつき合いになった方は、棚卸をしようと思っても棚卸ができない。

四季だよりというものを皆様方にお送りしていますが、あれも上毛新聞の社長が「自分の用事がある時しか来ないじゃないか。用事がない時も遊びに来なさい」と。私も「そんなに暇じゃない」と言いましたが、でも代わりを出さなければと思い、年に4回葉書を出すことに決めて出し続けているものです。年賀状を年に4回だと思って出したら「あなたのことは、いつもよく承知しているよ」という科白に変わって、多くの方と今も御縁が続いています。棚卸をする時に人間関係が本当に深くなった場合は、一生のおつき合いになるだろうと思っています。

「年賀を御遠慮申し上げます」という方のパターンが幾つかありまして、90歳を過ぎた方の年賀の欠礼は、もう字が見えなくなりました。字を書くことが大変になりましたので年賀状をやめます。湯島聖堂の理事長をしていた宇野精一先生は、そういう書き方をされました。それから80代の荒井桂先生からは「80歳になったら世の中の冠婚葬祭は失礼してもよいという慣わしがあります。私もその世の中の慣わしに従って、これからは年賀状を失礼させていただきます」と、今年ありました。荒井先生から教わったことは、何度も言っていますけれども、花の香りが分からない。特に強い香りが出るものでも分からない。そうなるともう第一線から退くということだと教わりました。「か・き・く・け・こ」を提唱した先生は脳の専門で、人間の脳がおかしくなってくる時は香りが分からなくなってくる。脳が萎縮してくると香りから分からなくなってくる。香りが分からなくなってきた時は脳

の専門家の立場で言えば、人間が廃棄物に向かって進み始めたという証であるそうです。

今は70代の準備をしようと思っていますので、頭をもう一回きれいにします。頭の中を一回きれいにシャッフルしておかないと、新しい知識を入れる時にはカスがいっぱい詰まっていると、入ってこない。どうしようもないからカスを取ろう。それから身体も、もう一回リフレッシュしようと思っています。私は運動をしますが、脚を持ち上げた時に太腿筋が悲しくなるぐらい落ちている。だから太腿に筋肉をつけようと今考えておりますので、今年は体の中のカスと頭の中のカスを全部入れ替えしていこうと思っています。非常に楽しい年になります。

### 恒例の質問

- ・良い年末年始を過ごしたと思う方。
- ・煮え滾るような情熱を持って今年はこれをやりたいと思う方。
- ・では世間なりの情熱を持って程々の方。

・そんなに情熱は無いけれども、まあ出来たら良いなぐらいの情熱でやろうという考えがある。

やっぱり何かしようと思うなら、煮え滾るような情熱があった方が良いでしょう。

脳の中でいうと、脳は快楽を欲するそうです。脳に楽しみを持たせるのではないそうです。脳に快楽を与えるような楽しみを持って。そういう観点から始まるから、やっぱりもう楽しくて嬉しくて身体が沸き立つような楽しさを頭の中におけば良い。それで嫌なことがいっぱい起きたとしても、煮え滾るような情熱で取り組んでいたものがちょっとでも進んでいたら夜寝る時に「ああ良かった」になるでしょう。

- ・今年も今日で9日目です。今年に入って嘘はついていない。どうでしょうか？

リップサービスをするとやっぱり後で大変です。だからなるべくリップサービスをしないように心がけると良いでしょう。

あとは新聞、テレビ、いわゆるメディアがついている嘘は意識して見抜きましょう。今、世の中は、国家間で嘘をつくことが当たり前になっていますから。

北朝鮮のアナウンサーで、ドスのきいた声を出す中年の女性がまた再登場していますがけれども、あの人は確信犯です。目まで信じさせるような口調や目つきですから、北朝鮮は見捨てないだろうと感じます。顔つきや瞳を見ていると、嘘をついていると自覚しながら喋っている人間の目は泳いでいます。テレビはその点、分かりやすく良いです。目が泳いで喋っているアナウンサーは、おどおどしながら喋る。去年は中国の広報官が結構おど

おどして喋っていました。それから新聞の書き方を見ていると、よくないなと思うことがあります。例えば「ロシアに対して日本政府はこう注文をつけなければならない」という記事は、まったくの上から目線で、自分はやらないで安全なところにいる。それなのに「お前は、それをやるべきだし、やらなきゃ駄目だ」という。

本音の言い方が違う場合もあって嘘ではない時もありますが、でも明らかな嘘というのは、世の中いっぱい充滿していますから、自分なりに嘘の見分けかたを身につけてください。

・9日間で「有難う」と言うし、相手からも「有難う」と言われる。「有難う」と言われることが多かった。

私が最近やっていることは、相手が「有難う」と言ったときに、自分にとって心地の良い「有難う」は拡大解釈して聞くことにしています。

人の「有難う」が良いなと思ったら、「今の有難うは良いですね」と言います。そうすると相手もニコニコするから「笑顔も良いですね」と。相手も良い気分になるし、私も良い気分になるのでお勧めです。

・今年は今までの健康法にプラスまたは変えて新しい健康法に取り組んでいる方。

新しい健康法が自分に合うかどうかは3ヶ月ぐらい続けると分かると思います。1日、2日では取り組んで失敗したと思っても、失敗と言わずに3ヶ月ぐらい続けると良いでしょう。

この間、「よろず承り相談所」というNPOを作っている人に、久しぶりに会ったら、まだ66歳なのに、ものすごい猫背になっていました。「どうしたの」と聞いたら、上の棚の荷物を取ろうとして大丈夫だろうと思い、回転椅子に乗ったら回転椅子がグルッと回って、ドスンと尻餅をついて落ちたら背骨がグシャッと潰れてしまった。足の先から内出血で腫れ上がっているから半年ぐらいは動かせないという話でした。ある程度の年代になったら、大丈夫と軽く考えては危ないです。軽く考えないで、昔出来たから今も出来るだろうは、止めたほうがよいでしょう。

・昔と比べて体力が落ちた。筋力が落ちたと思われる方がいいかでしょう？

有難うございます。そう思った方は、どうぞ何か自分なりの工夫を致しましょう。あとは、特に気持ちの若い方や行動力のある方とつき合う。若くて威勢が良くて行動力のある、そういう人と意識的につき合おうと思っています。

・昨年1年間の中で明日を過去形でイメージしたことが1日でもいいから1回でもいいから、あった方。

・9日間、我ながら自分磨きをしたと思う方、自分で自分を磨いた方。

今、気分良く動いています。実は平成 27 年 12 月 31 日付けでシムックスの代表取締役会長を降りました。今までの株式会社中齋塾という名前を改称し深澤事務所に改めました。それで 1 月 1 日に、株式会社深澤事務所の役員会を開き、正式に発足させました。齋藤司法書士に「1 月 1 日に役員会を開いたから登記をして」と話したら「本当に 1 月 1 日に会議を開いたんですか？」と聞くから、「最初から嘘つくわけにはいかないでしょう」と言いました。

だいたい日本の法律は、嘘ばかりつくようにさせている。定款を見てください。公告は官報をもってするとか、官報に載せている人はどれだけいるか。役員会など何をやったって議事録を見たって、出てない人が出た格好にして書いてあるものがいっぱいです。国が率先して嘘ばかりつかせている。

私は会議をしていないのに、会議をしたと登記をするのが嫌だから、本当に 1 月 1 日に集まって会議をしました。そうしたら「ほー」と言うだけで、良いとも悪いとも言わなかった。バカだねという感じの目付きはちょっとあったけれどもね。

今年は専門家ばかり集まってもらって事業承継研究会を 1 月に発足いたします。「ほー」と言った人も、一緒に事業承継研究会の仲間に入って貰うことにしました。事業承継研究会は、事業をバトンタッチするのに、色々な専門の先生方にお集まりいただいて 1 年間で形を作ろうと思っています。

論語の中でいくと論語の根本は、私は「述」が基本だと思っています。中里麦外先生は「道」とは表面的。腹の中にあるのは「述」と「道」となりました。

そういう話を大学の新年会で学者さん達と話をしました。だいぶ大学の中で拙著『陽明学のすすめ』が出回っていましたので、学者の人達が私に対して注文をつける、質問をするということも、もう幾らでも貰いたいし待っていますと話しました。何故ならば、いっぱい複線が入っているし仕掛けもしてあるから、「これは何だ」と質問をしてくれたら、待っていましたとなります。

「本当に、あなたの本はやさしく書いてありますね」と言うから、「それで良いのです。それで仕掛けが一杯してありますけれど、何か話はないですか」と言ったら、「いえいえとんでもない」と消えてしまいました。世間に名前の通っている学者達は論争して負けると自分の名前に傷がつくから、あんまり論争したがる。でも中齋塾フォーラムは、そういうことには関係がないので、皆様方もどうぞお読みになって「これは変だとか、おかしい」とあったら言ってきてください、楽しみにしております。

それから「経営のコツはここにある」という経営指導研修会を 1 月からスタートさせました。1 月 4 日に第 1 回目の講習会を持ちました。まあそんな事で、やりたい事をやろうと

思っています。せっかくシムックスの代表取締役会長を降りたので始めます。楽しみでございます。やりたいことは煮え滾るような情熱を持ってやっています。

### **基本哲学 <知足>**

「足るを知る」という言葉は、最近さらに確信が深まりました。きっかけは「愛と魂について」というテーマで、ベルリンで話をしたことです。環境問題の専門家が集まって、色々と話し合う。参加人数は多くはありませんでしたが、その環境問題の専門家が「地球はもう破滅に瀕している。何をヒントにすれば、地球は、人類は、生き延びられるだろうか」というテーマで話をしていました。私はその時に「足るを知る感性が一番良い」と話しました。

日本人はヨーロッパ圏の人達が持っていない感性がある。日本の風土は他の国々と比べても段違いに素晴らしい。世界の視点でみると日本人は異端ですね。国と国の間では、嘘をついて当たり前ということが国家間の常識のようですし、国内でも同じことが言えます。日本人が「嘘をつきません」というと、そんな馬鹿なと思う人達が世界的に見れば大多数だと感じています。

砂漠の中で生きている人達は苛烈な生存競争にさらされているでしょうから、そういう人達から見ると日本の温暖な気候とは天国みたいにみえるのではないのでしょうか。そういうことをつくづく感じています。そういう国から発信する言葉が「足るを知る」、苛烈な生存競争中で足るを知るという考え方は、なかなか受け入れ難いと思いますが、日本語は良い言葉が他にもたくさんあります。「おかげ様で、有難うございます、もったいない」これらを踏まえて足るを知るを広めていくのは、世界を救う言葉になると意識しました。また広げなければいけないだろうと感じますので、この基本哲学の「知足」は、常に思いを深くする必要があります。

### **論語の視点**

論語の読み方はくれぐれも現代に置き換えて読む。論語をそのまま読んだのでは、役に立ちません。

中国で論語が残っているのは、理想的なことを孔子が言ったからです。「政（政治）」という言葉は、たくさん書いてありますが、中国は政治を上手に動かすために、国民をいかに働かせて、自分達の思い通りに搾取できるか、いかに私腹を肥やすかという感覚がベースにあります。ですので中国では、彼方にある夢のお話ということで受け入れられたと思います。孔子の考え方は夢みたくて理想だねということです。

日本で道徳的に受け入れられたのは、もともと日本にそういう素地があるからでしょう。日本で論語が受け入れられたということは、日本の国の中に、また国民にそういう素地があるから道徳的なものも花が開いたと思います。だから中国人がみる論語の印象と、日本人がみる論語の印象は、まるで違うと最近強く感じています。

#### <憲問十四>

**【三】子曰く、士にして居を懐うは、以て士と為すに足らず。**

「士」は道を求める人物、「居」は自分がぬくぬくできる、のんびりできる所。故郷でぬくぬくする人は、故郷を想うし、家に帰ってぬくぬくのんびり出来れば家のことを考えれば良いでしょう。

ここで我々が考えるのは、自分がのんびりゆったり出来る所はどこか。または誰と会っている時か、何を食べている時かなど、のんびり出来るかということ思い出すことでしょう。

年がら年中ぬくぬくしている人は人物ではない。時々自分をぎゅっと締めることが必要です。毎日遊び暮らしていると、良くないと思えばよろしい。

**【四】子曰く、邦道有るときは、言を危くして行を危くす。邦道無きときは、行を危くし言孫う。**

今の政治家がみな考えれば良いことです。その国に正しい政治が行われて、きちんとした秩序がある時は、行動は思い通りにして良いし、言葉を正直に言ってよろしい。ところが国に秩序が無い時には危ない。

例えば、変なことを言うと火炎放射器で焼き殺される北朝鮮。発言は氣をつけた方がい、行動も氣をつけた方が良い。また今年にはイスラム国を意識してみる必要がある。今まで北朝鮮が身近でしたが、イスラム国は馴染みが薄いから氣をつけた方が良いでしょう。

あとちょっと追加、石川忠久先生が年頭にあって漢詩を作りました。そこに自分のサイン(岳童散人)をしました。私が「先生、岳童は号だけでも、散人の意味は何ですか？」とお聞きしましたら「もう年を取って役に立たない役立たずって言葉だ」と言うから「そうですか」と言ったら「謙遜、謙遜。謙遜しておかないと、まずいからね」と言って終わ

りました。

## 紹介書籍

『國の個性』木内信胤著 プレジデント社

紹介書籍の『國の個性』は、何度も御紹介していますが、木内信胤先生は「ソ連は崩壊する」と、かなり前から明確に言うておられました。

ソ連が崩壊してロシアになりましたが、木内信胤先生は「ゴルバチョフは殺されなければいいけど」という言い方で話をされておりました。先生が亡くなる前に「私はこれから予測学をしたい」と、言うておられた。先生は色々なことを予測していますので、もう一度みなさんに回覧します。

『國の個性』の中身を少々ご紹介いたします。私は木内信胤先生の本の書き方を参考にさせていただいています。出だしを読みます。

「今度のこの本は幾つかの閃きに導かれて書かれたものです。ですから通常の本とは大いに違う所があります、知識の集積によって書かれた物ではないからです。普通の本は知識を並べて書いている訳です。これは明確に知識の集積ではないと、で、閃きとは何か、理屈を離れて、ああ、そうだ、そう分かるその心の働きですが、それは総合的直感力と呼んでもいいものです」

私はこの集まりを「総合的直感力を勉強する。知らず知らずの間に総合的直感力を磨く、学ぶ会である」という言い方もたまに致しますが、その根っ子はここにあります。ですから中斎塾フォーラムの基本的な部分、総合的直感力は理屈ではないということです。

失礼な聞き方をしてしまいますけど、奥さんいらっしゃいますか。

—おります。

奥さんは恋愛でしょうか、見合いでしょうか？それで奥様の最初の頃の魅力を語ってくださいと言ったら、口に出ますか。それとも男として、そんなことは恥ずかしくて言えるものではない。どちらに組みますか？

—直感ですね。理屈は後からついて来ます。

有難うございます。そういう答えを期待しておりました。惚れた晴れたは何とやらってえやつで、惚れたことに対する説明は無いでもんね。

総合的直感力は日本人にとって素晴らしい。ノーベル賞を貰った人達は、だいたい閃きや感働が多いそうです。色々なものを、知識を、どんどん集積していき、ある日突然それが融合してパッとひらめく時だから、理屈を積み上げるものではありません。それを裏

付けるものとして知識は必要だけれども、感性が高まっていき、四六時中そのことを考えて最後に融合して爆発する。それがノーベル賞に繋がっていく。そういう頭の構造のようです。

『感の構造』という本の中に書かれています。我々がこういう学びをしていると普通の直感力が磨かれてくるから、あとはそれに総合力をつける。総合力とは出来る限り多くの情報を取る。それも生きた情報です。書いてある物だけだと、なかなか本物の情報にならない。これはと思ったら、書いた人に会う。もう亡くなっていて会えなければ、その書いた人の生まれた所に行ってみる、何か残っていますから。

私は陽明学を基にして話をしていますから、陽明学の物の考え方、行動は自然と身についてくる。中斎塾フォーラムの皆様方は無意識の内に総合的直感力が磨かれる。そして知足という考え方を標榜しています。どうぞ御自分で、出てきた言葉がキーワードだなと思う言葉はメモしていただいて、時々見直しをしていただくことを、お勧めいたします。

## 時事評論

今日の新聞で私が目についたのは読売新聞の展望 2016 です。「備えが問われる」というところで都民向けの東京防災ブックを全部配布したという記事ですが、スイス政府発行の危機管理マニュアルから舛添さんが、着想を得たと書いてあります。『民間防衛』は、発行されてから数十年経っています。『民間防衛』の話は時々していたと思いますが、覚えておられている方いますか？

『民間防衛』という本は、スイス政府が発行しているかなり厚い小冊子です。それにはスイスを攻めてくる人がいたら、お年寄や若い人はこう戦えと書いてあり、一家の大黒柱は自分の子供に銃の扱い方、撃ち方を教えて、家には銃を装備し攻めてきたら、一家総出で戦い、あとは備蓄すべき物は何かなどが書いてあります。スイス政府は住民各家庭に配っています。

翻訳したものは、かなり前に購入して何度も読み直しをしましたと、ちらっと書いてあるけれども、何でそういう説明を新聞は書かないのでしょうか。でも書くと安倍さんの追い風になるから書かないのかなとか、そんな感じがしました。

それから小さい記事ですが、「おおさか維新の会、予算委員会を欠席とあります。今日の新聞ですけれども、何で予算委員会を欠席したか。民主党がおおさか維新の会は与党か野党か分からない政党であるからと断言をしてその扱いをしたがために、おおさか維新の会は欠席した。何という阿呆な仲間割れをしていることよと感じます。

北朝鮮で金正恩第一書記が 8 日に誕生日を迎えて、33 歳になったと小さく書いてありま

す。私、思うのですが、金正恩が公に出てからの写真を1年ごとに並べて紹介したら面白いのではと感じます。1年毎に太っていることがよく見える。そうするとお医者さんや専門家から見れば、このままでは何年後かには駄目になるという話になると思うのですけれどもね。如何でしょう。

大きい記事はあんまり気にしないで、小さい記事をちょこちょこ見ると、おやっという部分があります。

最後の締めくくりで申しますと、今年は丙申（へいしん ひのえさる）です。

申（さる）という字は稲光、稲妻、電光ですから「電光石火」ですので、突如としてとんでもないことが起きる。

丙（ひのえ）は、大きい門構えがあり、その中で一見すると、とても立派な門構えだけれども、もう頂上まで来たから後はひっくり返るだけということが、じわじわ出てくる。

加藤常賢先生は「犠牲者の首を生贄の首を推し進めている状況の文字である」とありますから、今年は一見良さそうに穏やかにみえる日々が続くけれども、突如として世界が崩壊するようなことが起きる危険性がさらに増します。

以上にて終了いたします。有難うございました。